

いじめが起きにくいクラスって？

クラスがえの後で……

4月、クラスがえを経て間もない一谷中学校3年1組の教室でのことです。

「このクラスを見てると、まだ、仲が良い人どうしてしか話せていない。何か壁があるんじゃないかな？」

担任の先生が、クラス全体に何気ない言葉を投げかけました。生徒の伊庭さんは、それを聞いてふと思うことがありました。



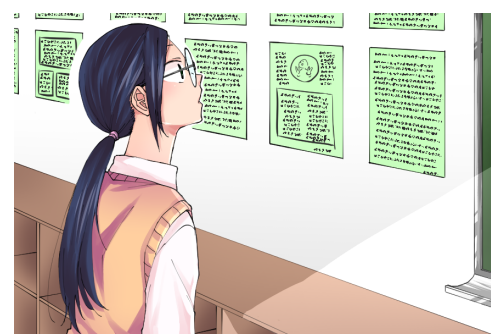
(たしかに、静かな子、いつも休み時間に読書をしている子とは話してない。でも、自分が話しかけたところで、話が合わないんじゃない?)

伊庭さんは、となりの席の水野さんと、ほとんど話したことがなかったのです。

(無視されたらいやだな……)

伊庭さんは、何となく不安な気持ちから、

先に進むことができずにいました。



いっぽう、水野さんは、教室の後ろで、はり出されたクラスメートのプロフィールを見ていました。そのなかには伊庭さんのプロフィールもありました。果たしてふたりは、会話のきっかけをつかむことができるのでしょうか？

そんなある日の授業で、グループに分かれて、いじめが起きにくいクラスをつくるための話し合いをするようになりました。伊庭さんと水野さんは、同じグループです。

「クラスが楽しくないっていう人が、ひとりもないようにしたい」

そう言って、伊庭さんは話し合いを進めます。伊庭さんは、この授業をきっかけに水野さんと話したいと考えていました。け

入学したばかりのときや、クラスがえのときは、ひとりぼっちになった気分になります。いじめは相手をよく知らないことから「きらわれているかも」「悪口を言われているかも」などの思いこみで起こることがあるんです。

れど、水野さんの意見はなかなかまとまりません。伊庭さんは思い切って、水野さんへの素直な気持ちを伝えることにしました。「本とかさ、いつもひとりで読んでいる人には話しかけづらいよね」

すると、水野さんは言いました。

「話しかけられたら、私は本を読むのをやめると思う」

「でも、何か話題がないと話しかけにくいし、どうしたらいいんだろう？」

悩んだ末に、伊庭さんは、1年生のころの自分のつらい体験を話し始めました。伊庭さんは、クラスメートから、からかわれたことが原因で、友だちと一しょにいられ

なくなった時期があったのです。

「ひとりっていうのは本当に悲しいし、さびしい。だから、だれかがひとりっていう状態をあまりつくりたくない」

すると、そんな伊庭さんの思いに応えるようにして、水野さんが話しました。

「去年、最初はひとりであることが多くてさびしかったけど、その後、体育祭とか文化祭とか、いろいろな人と楽しむことができて、すごくうれしかった。このクラスでもたくさんの人と話せるようになりたい」

伊庭さんは、意見が聞けてよかったと、水野さんに伝えました。水野さんはさすががしく、うれしい気持ちになりました。

みなみの考



「みんなと話したい」という気持ちを水野さんが伝えたことで、伊庭さんも、水野さんに話しかけていいんだとわかった。そうやって、おたがいが気づきあう「答え合わせ」がクラスのあちこちで起きれば、いじめも起きにくいんじゃないかと思えます。おたがいを知るということが、クラスづくりには大切。知るきっかけをつくることは勇気がいるけれど、相手に興味をもつことから始めてもいいのかも。私は、AKB48にいたとき、メンバーといっしょに食事をして、話すきっかけをつくっていました。